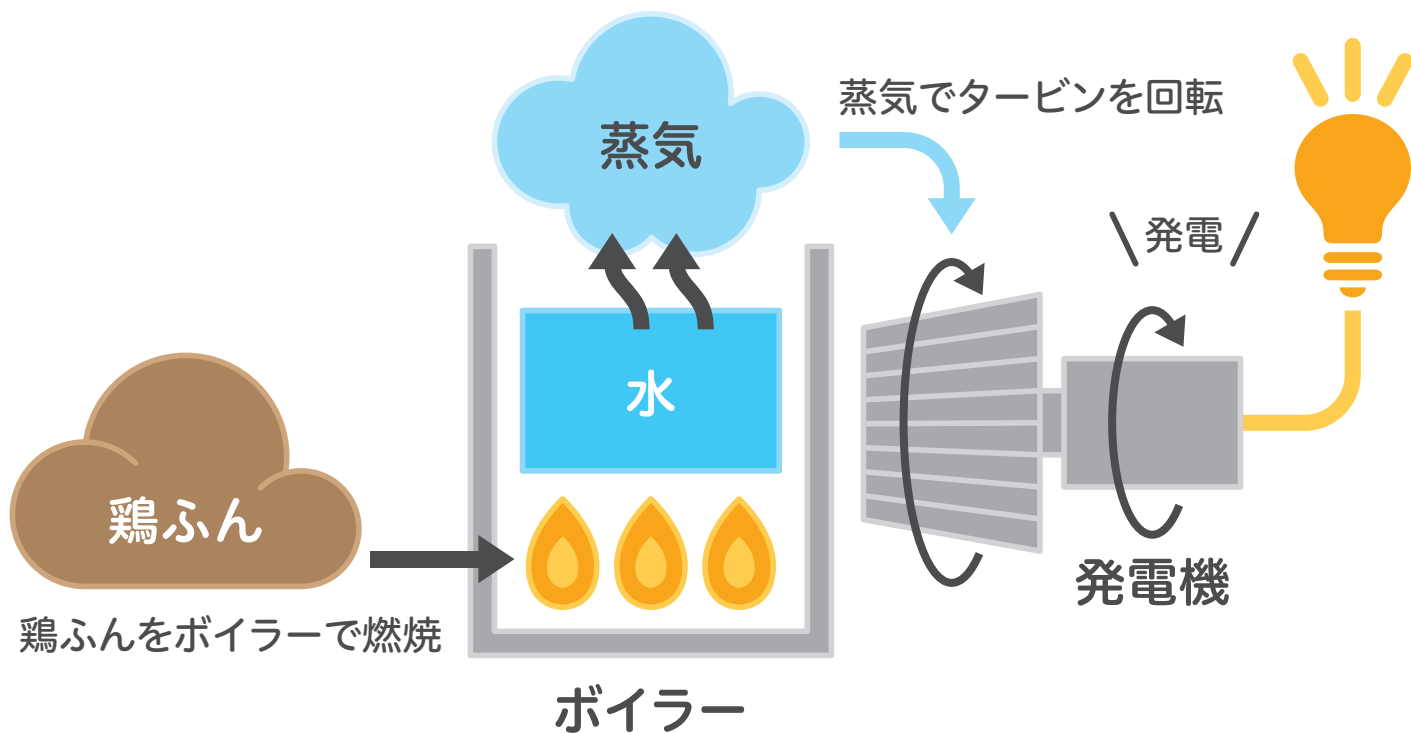


バイオマス発電(直接燃焼方式)



バイオマス発電は、生物資源の力で発電します。たとえば、鶏ふんや生ごみ、間伐材が燃料となり、その種類によって発電方式が異なります。パルシステムの発電産地、(株)十文字チキンカンパニー・バイオマス発電所では『までっこ鶏』の鶏ふんを燃料として、ボイラーで直接燃やします。その熱で水を蒸気に変え、その蒸気でタービンを回転。タービンは発電機に連結しており、発電機を回すことで、電気が発生します。

(株)十文字チキンカンパニー バイオマス発電所(岩手県九戸郡軽米町)

同社では年間5,000万羽の鶏を飼育し、毎日400トンの鶏ふんが発生します。以前は農業用の堆肥への活用もしてきましたが、このバイオマス発電所が完成してからは、鶏ふんを燃料として活用しています。十文字チキンカンパニーからは、鶏肉(『までっこ鶏』)だけでなく、電気も組合員に届けています。



所長の
古舘裕樹さん